

主の変容が教えている福音 マルコによる福音書9:2~9 / 李正雨師

神学校に通っていたとき、私のあだ名は「ラグビーボール」でした。ラグビーボールを落としたり、どこに弾むかは分からないでしょう。友達の話によると、私の考えや行動がラグビーボールに似ているから、そのようなあだ名が付けられたそうです。私の考えが少しひねくれているからか、それとも既存のことに従っていないからか、私はいつも他の人とは違う歩みを示しました。だから、私が同僚の中で一番先に日本に来たのではないかと思います。そして聖書も、少し違う視点から見るのが好きです。既存の解釈や説教も好きですが、違う視点の解釈も必要だと思います。このような私の考えと説教が皆様にとって理解しにくいこと、又は受け入れにくいことであったかもしれません。もしそうでしたなら、許してください。しかし、私の考えでは、聖書は時代に合わせて解釈しなければならず、説教も変化しなければならないと思います。私たちは、聖書の時代とは違う2024年に生きているからです。

今日の福音書の最後の節である9節には、こう書かれています。「一同が山を下りるとき、イエスは、『人の子が死者の中から復活するまでは、今見たことをだれにも話してはいけない』と弟子たちに命じられた。』」今日の福音書は、イエス様の変容についてです。イエス様は、ガリラヤのある山々で栄光の姿に変容されます。そして山を下りるとき、弟子たちに「今見たことをだれにも話してはいけない」と言われます。この「話してはいけない」ということには、一つの条件があります。「人の子が死者の中から復活するまで」という条件です。ところが、今の私たちは、イエス様の死と復活の後の世代、信仰によってイエス様の変容と栄光を信じる世代です。では、誰にも話してはいけないという言葉は、私たちにとって全く違う言葉、反対の言葉になるべきではないでしょうか。誰にも話してはいけないということではなく、皆に話さなければならないこと。それが今日の福音書が私たちに語っていることだと思います。

今日の福音書によると、イエス様は3人の弟子、ペトロ、ヤコブ、ヨハネを連れて、高い山に登られます。そして、そこでお変わりになります。マルコによる福音書の著者は、この姿を「服は真っ白に輝き、この世のどんなさし職人の腕も及ばぬほど白くなった(3節)。』と語ります。この言葉を通して、私たちは興味深いことを一つ知ることができます。イエス様の栄光の姿は、白くて輝いている姿だということです。そして、この言葉を読んだ元の読者たちは、他の一人を思い出したのだろうと思います。まさにモーセです。出エジプト記34章30節の言葉です。「アロンとイスラエルの人々がすべてモーセを見ると、なんと、彼の顔の肌は光を放っていた。彼らは恐れて近づけなかった。』

モーセがシナイ山で神様と顔を合わせて、十戒を持って下ってきたとき、モーセも輝きました。これは、神の栄光の属性は光であるということを示しています。神様がこの世を創造された時も、光が最初に創造されました。変容されたイエス様も輝いていました。つまり、神の栄光は、光として現れるということです。そしてイエス様が輝いたのは、神様の栄光がイエス様にとどまっていたということでしょう。弟子たちが見たのは、イエス様と自分たちの偉大な預言者、モーセとエリヤではありませんでした。神様の栄光を見たのであり、その栄光がイエス様にあるということを見たのです。

イエス様は、この栄光の中でモーセとエリヤと共に話し合われます。今日の福音書には、彼らとどんな話をされたかが書いてありません。しかし、ルカによる福音書によると、イエス様はモーセとエリヤと共に、ご自分の最期について語られたと書いてあります。イエス様は、栄光の中での自分の最期、私たちのための死を話し合われました。一般的に栄光とは、死によって得られるものではありません。力と権力に

よって得られるものです。しかしイエス様は、栄光の中でご自分の死と犠牲について語られました。そしてこれをモーセとエリヤと共に話し合われます。なぜこのような栄光にモーセとエリヤが登場したのでしょうか。私の考えでは、モーセとエリヤも、イスラエル人の救いのために自分たちを犠牲にした人々だからです。そして、このような犠牲は、神様の御心であり、これが神様の栄光でした。

モーセは老年である80歳に、神様から召されました。その後、40年間、イスラエルの民を荒れ野で導き、神様のご意志に従って、約束の土地に入らず、死を迎えました。エリヤも神様のご意志に従って、ヨルダン川に隠れ、カラスに養われたり、3年間、やもめの家に一緒に暮らしたりしました。さらに、アハブ王の妻であるイゼベルに追われたこともありました。そして、イエス様にも、このような犠牲が求められました。いや、彼らの犠牲よりも、大きな犠牲でした。イエス様の死によって、人々を救われるという神様のご意志でした。この神様の御心を示すために、イエス様は栄光のうちに変わったのだと思います。

イエス様の変容は、このような意味をもっています。単にご自分の栄光を示すためにお変わりになったのではありません。ご自分の犠牲が神様の御心であること、そしてこれが神様の栄光であることを教えるために、イエス様はお変わりになり、モーセとエリヤと共に話し合われました。当時、イエス様と共にいた弟子たちは、この意味についてよく分からなかったと思います。それで、ペトロは仮小屋を三つ建てましようと言ったのでしょう。栄光の意味ではなく、栄光の見かけだけを見たからです。しかし、イエス様の死と復活を経験した後、なぜイエス様が自分たちの前で変容されたかが分かったでしょう。

そして、イエス様の変容は雲の現れと共に終わります。今日の福音書7節によると、雲が現れて弟子たちを覆ったと語ります。イスラエルの中での雲は、伝統的に神様の臨在を象徴しています。モーセが神様から律法を受けたときも、雲が山を覆いました。ところが、イエス様にご自分の最期について話しておられた時も、雲が山の上にいる弟子たちを覆いました。そして、その雲の中から、「これはわたしの愛する子。これに聞け」という言葉が聞こえました。このすべてのことが神様の御心とご計画だということでしょう。神様の栄光はイエス様の犠牲にありました。そして、その犠牲によって私たちは救いを得ることができるのです。

イエス様の変容は、この救いを示すことでした。ですから、すべてのことがイエス様によって変わるようになるのです。神様の栄光をお持ちになったイエス様が、私たちのために死なれたからです。今日の福音書8節には、雲が現れた所、神様の言葉が聞こえた所には、イエス様だけが弟子たちと共にいたと書いてあります。私はこれが神様が示された救いについての教えだと思います。イエス様だけが私たちを救ってくださいということ、イエス様だけが私たちの救い主であるということです。イエス様に従う者は皆救われるのです。イエス様を望み、イエス様に従う皆様に救いが臨まれますように。神様の栄光が皆様といつも共にありますように、主の御名によって祈ります。アーメン